

# Economic Indicators

発表日:2019年9月19日(木)

## 全産業活動指数(2019年7月)

～前月比上昇も、均してみれば足踏み状態が続く～

第一生命経済研究所 調査研究本部 経済調査部

エコノミスト 奥脇 健史 (TEL:03-5221-4524)

(単位:%)

		全産業活動指数									
		前期比		前年比		第3次産業活動指数		鉱工業生産指数		建設業活動指数	
年	月	前期比	前年比	前期比	前年比	前期比	前年比	前期比	前年比	前期比	前年比
18	7	0.0	1.0	0.0	1.0	0.1	2.5	-0.7	-3.8		
	8	0.3	1.1	0.5	1.4	-0.2	0.6	0.0	-2.6		
	9	-0.8	-1.0	-0.9	-0.5	-0.1	-2.6	-0.6	-2.7		
	10	1.4	2.7	1.4	2.8	2.0	4.2	-1.2	-3.7		
	11	-0.3	1.5	-0.1	1.6	-1.0	2.6	0.2	-3.1		
	12	-0.1	-0.1	-0.1	0.6	0.1	-1.1	-1.5	-5.6		
19	1	0.0	1.0	0.6	1.6	-2.5	0.7	1.7	-3.8		
	2	-0.2	0.3	-0.6	0.9	0.7	-1.1	1.5	-2.0		
	3	-0.4	-0.5	-0.4	0.7	-0.6	-4.3	-0.2	-1.4		
	4	0.8	0.8	0.8	1.3	0.6	-1.1	1.2	-0.8		
	5	0.4	0.1	-0.1	0.6	2.1	-2.1	1.5	1.0		
	6	-0.7	-0.4	-0.1	0.5	-3.4	-3.8	-0.6	1.4		
	7	0.2	1.3	0.1	1.5	1.3	0.7	-1.4	0.7		

(出所)経済産業省「全産業活動指数」

### ○ 7月の全産業活動指数は前月比+0.2%と上昇

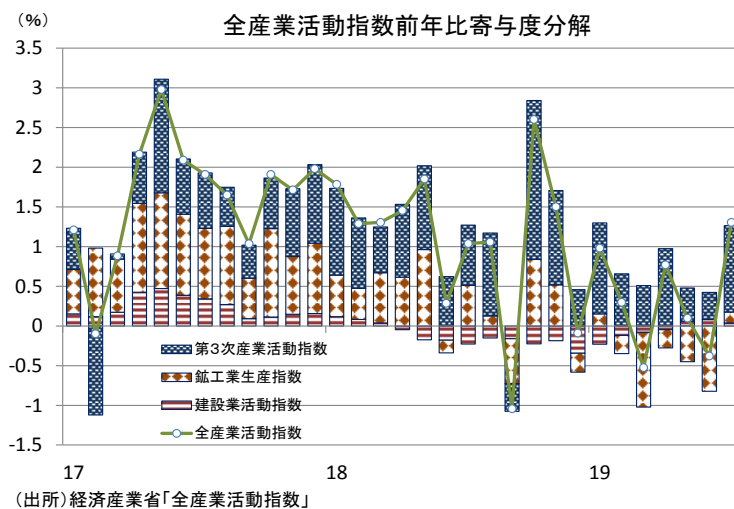
7月の全産業活動指数は前月比+0.2%（当社予測：同+0.4%）と上昇し、高水準を維持した。鉱工業生産指数と第3次産業活動指数が上昇し、特に鉱工業生産指数のプラス寄与が大きい。ただし、鉱工業生産指数の上昇は6月の低下（前月比▲3.4%）からの反動とみられ、均してみれば全産業活動指数は足踏み状態が続いている。

鉱工業生産指数は前月比+1.3%と上昇し、自動車工業（前月比+2.1%）、パルプ・紙・紙加工製品工業（同+7.5%）などをはじめとする幅広い業種で上昇した。今回の上昇は6月の前月比大幅低下の反動の面が大きいとみられ、前月の低下幅と比較すると戻りは弱い。同時に公表された製造工業生産予測指数では8月が+1.3%、9月が▲1.6%と予測され、経済産業省が試算した補正值によると8月は▲0.7%となるなど、上昇基調への転換は期待しにくい。引き続き弱い動きは続くと思われる。

第3次産業活動指数は前月比+0.1%と小幅に上昇した。梅雨明けの遅れなど天候不順を背景に小売業（前月比▲1.5%、寄与度▲0.14% p t）や電気・ガス・熱供給・水道業（同▲4.0%、同▲0.10% p t）などが低下したことを、卸売業（同+1.5%、同+0.20% p t）や金融、保険業（同+1.6%、同+0.16% p t）などの上昇が上回った形だ。第3次産業活動指数は前年比10ヶ月連続の上昇と依然として高い水準を維持している。

## ○ 全産業活動指数の先行きは足踏み状態が続く

鉱工業生産指数と第3次産業活動指数が上昇したことから、7月の全産業活動指数は2ヶ月ぶりに上昇した。全産業活動指数は高水準を維持しながらも、一進一退の状況が続いている。鉱工業生産指数については、世界経済の減速を背景とした輸出の停滞や米中貿易摩擦の動向など、先行き不透明感は依然として強い状況であり、弱い動きが続くと見られる。第3次産業活動指数については、雇用や賃金の改善を受けて高い水準を維持しているものの、賃金の上昇ペースが鈍化していることや消費マインドの悪化継続、消費増税が控えていることなど、悪材料がみられる。全産業活動指数は、引き続き足踏み状態が続くだろう。



本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所調査研究本部経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。